

(様式6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	2874900315		
法人名	社会福祉法人 きらくえん		
事業所名	グループホーム 竹原野		
所在地	朝来市生野町竹原野 2 2 2 番地 電話 079-679-3582		
評価機関名	兵庫県社会福祉協議会		
所在地	兵庫県神戸市中央区坂口通 2 - 1 - 8		
訪問調査日	平成20年2月14日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】(平成20年1月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	6 人	常勤 5 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.6 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,000 円	その他の経費(月額)	72,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立神崎総合病院・朝来和田山医療センター・中川歯科
---------	---------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

生野銀山跡を通り過ぎると生野町竹原野の山間に2ユニットで18人が共同生活を営んでいるグループホーム竹原野がある。建物は町立で和風数寄屋造りとなっており、ふんだんに木を使った温かみのある構造となっている。ホームの運営は社会福祉法人きらくえんが行っており、町と民営のメリットを生かした質の高い支援が行われている。交通の便は良いとは言えないが利用者にとっては、十分な自然を満喫出来る環境下にある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 前回の調査の中で様々な記録の記載内容について簡素化を要望されており取り組み中である。しかし全職員や利用者家族に前年度の評価内容を知らせる努力が不足している。質の向上に向けた取り組みの一環として前回の調査の改善内容を職員全員に周知し改善に向けた取り組みや、その内容を利用者家族にも開示することが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) ケアに関しては職員と共同で取り組みをしているが、自己評価については主にリーダーが記載しており全職員が関わって改善を行う努力が確認できなかった。職員全員が自己評価を行い改善内容を把握しながらホームの質の向上に向けた活動が望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議についてグループホームが行うべき内容であるとの認識がなかったこともあり今後の取り組みに期待をしたい。昨年は1回のみ実施されているが今後の取り組みと認識をされており期待をしたい。
	重点項目 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族会の総会時や日々の行事に参加してもらい意見要望を集約している。家族から出された意見については第三者委員会にも伝えられ改善に向けた話し合いが行われる。
重点項目	重点項目 日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 公民館活動(2ヶ月に1回)や句会にも参加をしている入所者もいる。また、地元のイベント(夏祭りや盆踊り)がある時には参加をしている。ホームの機関紙を各家庭に届けておりホームの存在を地域にもアピールしている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「ノーマライゼーション」は法人設立時に地域密着サービスを基本に考えたものであり、利用者にとって当たりまえの暮らしが実現出来るようにとの思いがあり、グループホームにも採用している。		法人が理念として掲げている「ノーマライゼーション」を理解されているが、より一層具体化される取り組みが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は利用者にとって当たり前の生活を営んでもらえるように実践している。また、地域の方と入所者とのコミュニケーションを大切にしており、地域の方々との挨拶はかかさず笑顔で行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館活動に参加したり、夏祭りや地域行事に積極的に参加を行い地域との交流を図っている。また、地域への情報発信を大事にしており竹原野地区全戸に2ヶ月に1回機関紙を配りグループホームの生活状況を紹介している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の評価内容が開示されておらず誰でも見ることが出来る場所に置いていない。		評価を形式的な作業に終わらせず、改善項目については管理者と職員の協同で対応策を検討し、ホームの質の向上に向けた取り組みに期待したい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年は運営会議の開催は1回のみであったが、今年は2ヶ月に一回の開催を目指し開催日等を検討をしている。</p>		<p>2ヶ月に一回の開催することについては今後の課題であるが各位との調整の上開催することが望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>制度上の変更点や運営上の相談をしており質の向上に向けた取り組みを行っている。地理的な状況もあり直接行き来することもあるが電話での相談を多く持っている。</p>		
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホームでの生活状況や金銭管理に対する報告は月に1回書面でやっている。2ヶ月に1回は作成をした機関紙を同封するようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会の総会で出た意見として、職員の名前がわからないので名札を取り付けることを検討してほしい。また、書面に写真を添付してほしいとの意見に関しては職員とも検討を行い実施している。(名札については入り口に名前と顔が分かるように再検討中)</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動に関しては家族会の会長とも相談をされており事業所の都合で異動することは無い。新人の職員の対応としては利用者が混乱しないようにベテラン職員と2週間程度は一緒に支援を行うようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	プリセプター制度により新人職員に対して3年までは段階的にフォローを行い育成出来るようにシステムを作っている。また、月に1回はグループホーム内の定例会議があり必要に応じた内部研修会を行っているが、3年を過ぎた職員に対する外部研修の機会が少ない。		職員数の関係もあると思うが熟練職員にも階層別研修プログラムが必要と思われる。その中に外部研修も盛り込むことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内の施設との交流は行われているが、外部の施設やネットワーク作りまでは構築されていない。		同じ法人内の交流以外にも他のグループホームや施設と交流することが望まれる。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者の見学が可能であれば見学してもらい、ホームでの生活のイメージを持てるようにしている。入所が決まれば職員が自宅を訪れて生活状況を確認し筆筒の位置や生活用品の置き方を工夫しホームに馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は礼儀作法は基より、お正月の飾りや端午の節句等の行事の段取り、お雑煮の作り方を教えてもらったりしている。また、地域の伝説聞かせてもらったりしており、入所者の方より教えてもらうことは多い。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意思を重視し、本人の意向を妨げることはしていない。フェイスシートに過去の生活歴も記載されており支援して行く上で参考としている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族の意見と職員の気づきを聞きながら介護計画に反映しており、家族の同意も得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>都度の見直しは行っており、職員は介護計画の見直し案を朱書きしてリーダーに渡し見直しを依頼している。しかし、見直し記録としては残されていない。</p>		<p>利用者の変化が無い場合でも一ヶ月に一回程度は見直しを実施し記録に残すことが望まれる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>外出支援を検討中であり、現在は試みとして「ふるさと訪問」で希望する利用者の地元へ職員と一緒に訪問するサービスを提供している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	在宅で診てもらっていた主治医をかかりつけ医としているが、遠い場合や地理的に利用者にとって不便な場合は近くのホームの連携病院をかかりつけ医としている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度のケアを行う必要が生じた場合の説明はホームとして家族に説明を行っているが、対応はケースバイケースになるため説明資料としては準備をされていない。		ホームとしてはターミナルまで看ることを目指しているが家族意向を大事にしている。ホームの方針を事前説明として出来る資料の準備が望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	個人ファイルは事務所の引き出しに入れており、目に付く場所には置かないようにしている。言葉かけについてはプライバシーに配慮をしており年に1回法人全体研修会の中でプライバシーに関する研修も行われている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	生活に関するルールを定めず個々のペースにあわせた暮らしを支援している。お風呂は毎日入ることが出来るし時間の要望に応じている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りのお手伝いをしてもらえる利用者は3人程度で出来ることを手伝ってもらっている。野菜を中心に買出しを毎日行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は毎日入ることが出来るし入る時間の要望も聞きながら対応をしている。14時～17時代を中心に入浴をしている。また同性介助をを基本としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作りが好きな方には野菜を作ってもらったり、書道や絵画も好きな方には行えるようにしている。地域の講習会に参加を希望した方には参加出来るように支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	家族にも呼びかけて一泊で温泉旅行にも旅行をしている。希望者があれば外食も行っている。食材の買い物は毎日行っている交代で数人が参加している。地域の行事にも参加をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵をかけることは無く自由に出入りが出来るようにしている。もしもの場合は地域の方からの通報してもらえるように日頃からお願いをしている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	地震等の対応のための緊急用食材は3日間分を保存している。夜間を想定した訓練もっており、決められた連絡網が機能していることを確認している。しかし地域との協力体制を行うことが課題である。		地域との協力体制を構築する努力をされているが、地域の人達に充分理解されていないので、今後の行動に期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	特養の管理栄養士の立てた献立を中心に食事作りをしており特に問題となっていない。水分量については最近の状態から記録するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	共有空間には要所要所に椅子が置いてありその椅子には暖房しており座り心地が良い。一輪さしの花も適所に飾ってあり見た目にもくつろげる。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者の使い慣れたものを自由に持ち込むことが出来る。自宅の使い慣れた配置も事前に確認し、フェースシートに記載している。それを基にホーム内でも使いやすくなるように配列している。		

 は、重点項目。